

佐渡市立赤泊小学校 研究紀要【概要版】「願いをもち なりたい自分になるために 学び続ける子どもと教師～ p 4 c を生かした授業と対話の分析をとおして～」

1 子どもの実態と研究内容について

● 子どもの実態

- 誰とでも仲よく遊ぶことができる。
- △自分の意見を積極的に発言しない。
“誰かに否定されないだろうか”
“間違えてはいないだろうか”
“私が言わなくても誰かが言ってくれる”



● よりよい生き方を実践する力を育むために

- “めざす子どもの姿”と“なりたい自分”
を教師も子どもも、考える。
- 研究のゴールは、
「子どもが、自分の生き方を
自分で語れるようになる」こと。



● 探究の対話 p 4 c

- 子どもの知的好奇心を生かす学習
- ・子どもがつくった「問い」で対話する。
 - ・子どもと教師が円座で対話する。
 - ・探究心の高まりが期待できる。
 - ・ルールがあり安心して学習ができる。



● 評価

- 対話の内容や振り返りの評価
子どもの意識の変化への評価
- 何よりも大切なこと
“子どものよさを認め励ます”

2 道德 × p 4 c について

● p 4 c のよさを生かす

- ・子どもが安心して対話できるルール
セーフティの概念を生かす
- ・コミュニティーボールを用いた対話
- ・多面的・多角的な理解の促進
- ・子どもの考えが広がっていくよう促す

● 道德×p 4 cの授業で教師が意識すること

- ・ファシリテート ・セーフティー ・楽しむ ・道德
- ・傾聴 ・受容と共感 ・本音 3つの「きく」



● 道德×p 4 cで授業改善を実現するために必要なこと

- ・道德に成熟している大人が、道德的に未熟な子どもに、
その価値を教えるという誤ったイメージをもたないこと。
- ・せかさず、じっくり、共感的に聴くこと。
- ・子どものわからなさを共有し、一緒に考え、わかっていくこと。
- ・道德科のポイント「納得と発見」「当事者性」を意識すること。



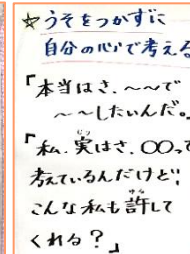
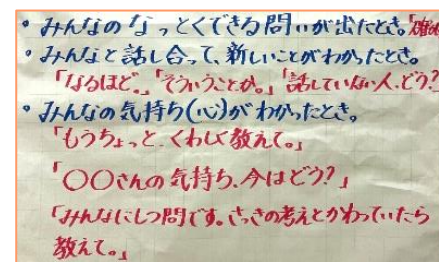
3 なりたい自分 ・ 道標 ・ 特別活動との関連について

● 子どものよさを更に伸ばす

- ・キャリアパスポートとの関連を図る。
(図1は連携イメージ)
- ・道標、キーワードを作成する。
(図2は道標の一部)
- ・特別活動との連携を図る。



(図1)



(図2)

4 成果

道徳 × p 4 c

- 子どもが語れるようになった。
- 対話で教師ではなく子どもが質問・問いかけをしている。
- 本音で自分の思いや経験を語る子どもが増えた。
- p 4 c では他者理解・人間理解が常に展開された。

めざす子どもの姿となりたい自分

- 友だちの話に心を寄せて聴くことができるようになった。
- 自分を見つめて、振り返りができるようになった。
- 前向きに自分の成長を捉えることができた。
- 思いやりがある言葉遣いや行動が増えた。

これからの赤泊小

- 教師の発問や出方次第で対話の深まりに影響。
→聞く・聴く・訊くを大切に、介入方法を模索する。
- 子どもの声や思いを大切に、授業改善を図る。
- なりたい自分になるために、ともに学び続ける。